

商店街

まばらに走り抜ける車以外に、この商店街の静けさをかき消すものはいなかった。

まばらに照らし去るヘッドライト以外に、この商店街の造形を見せるものはいなかった。

数年前に閉店した文房具屋は、今もなお外観だけが残り、「三菱鉛筆」と赤い文字で書かれた看板は、もう日に焼けて消えかけている。

散髪屋のサインポールが、ガラス戸の向こうに引きこもって休んでいる。

シャッターに大きく書かれた「ゆ」の文字は商店街一の存在感がある。

立ち飲み処「やっさん」の前には、サラリーマン達の溜息がそろそろ消えかかっていた。

直近の経営統合によって綺麗になったバス停の看板は、少しずつ街に馴染めてきたようだ。

白く太く「フジカラー」の文字は、緑を背景にして堂々としていた。

商店街に穴が開いたように、コインパーキングが一角にできていた。

小学生向けの雑誌は、明日にまた店頭へ飛び出して本屋を彩るだろう。

タワー型の立体駐車場はずっと封鎖されていて、動くかどうかさえ怪しい軽トラはずっと見張っている。

パン屋では生地がいびきを立てて寝ている。

スーパーマーケット「モンマルシェ」はおしゃれな外観を窮屈そうにおさめている。

全て通り過ぎていただけの場所。

鳴りを潜めた太陽が、私の視野を広げたのだ。